

上尾歴史散歩

273

市制施行55周年特別企画

上尾サイクル紀行 ⑨

原市を巡る

「上尾サイクルマップ」で訪ねる郷土の歴史



原市の町並み

サイクリングコースはさいたま菖蒲線(第二産業道路)を新幹線高架下(下新町)で左折し、埼玉新都市交通沼南駅を経て原市沼へ向かう。コースから外れるが、原市の町並み(旧さいたま菖蒲線)を走ってみたい。

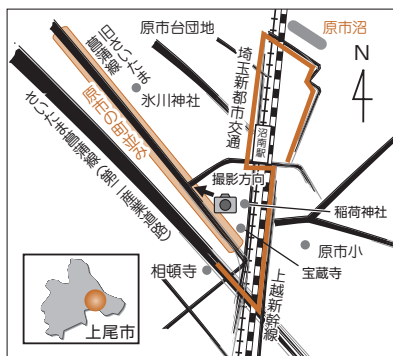
原市は、江戸・明治時代にかけて物資の集散地として発展し、蔵造りの建物が立ち並ぶ独特な町並みが形成された。上新町・上町・中町・下町・下新町の五つの町内に分けられており、所々に昔の市の名残が見られる。原市の市は三八の「八歳市」といわれ、ひと月に三日のりと八の日の六回開かれ、明治時代には県の許可を受け上町・中町・下町がそれぞれ順番に二回ずつ開催しており、大正末期まではかなり盛んに開かれていた。中町の氷川神社は上新町・上

もう一つは佐四郎稲荷ともいわれている稲荷神社で、こちらは数メートルの移動であったが、元の鳥居が今も敷地内に残っており、歴史を物語るようだ。

行田市の古代蓮の里から種子を譲り受けた原市沼では、平成6(1994)年3月、古代蓮復元のため蓮池の掘削の許可を得て古代蓮の復元に取

町・中町の三町の守り神として祀られてきた神社である。下町の稲荷神社は地域の氏神様で「商売繁盛の神様」として近在の商家から広く信仰されてきた。

コースに戻ると、新幹線開通のために移転・再造営などを余儀なくされた寺社が二つ新幹線高架下西側に並んでいる。一つは真言宗の医王山宝蔵寺で、樹齢五〜六百年と推定される市指定天然記念物の、らかなまきの木が移植されたのは驚きだ。当時の資料によると、移植はもう夏にかかった昭和56年7月4〜6日に行われた。高さ10m、幹回り2.5m、重量27〜28トンの木を、45トクレーンで50m離れたところを途中三回下ろし、その間にクレーン車を移動しながら慎重に慎重を期して動かしたそうだ。



り組み、第1号が咲いたのは平成8(1996)年7月18日の朝と知った(「原市沼を愛する会」の会報)。同会の活動はザリガニとの闘いに明け暮れていたようで、ここ数年は年間総開花数一萬弱、年間来場者数一萬弱に対して、年間ザリガニ捕獲数二萬超だという。

次号は瓦葺を通り伊奈町方面までのコースを進みたい。(ぐるっとサイクルリング同好会・川島一郎)

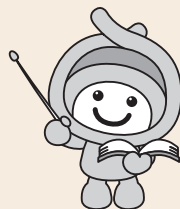


7月頃に見頃を迎える原市沼の古代蓮



アッピーを探そう!

右のアッピーが登場するのは? ページ



【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、12月20日(金)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は1月号のこのコーナーで。前号の答えは「27」でした。ご応募ありがとうございました(応募者46人)。

市の人口・世帯

(平成25年11月1日現在)

22万8,127人

男/11万3,659人

女/11万4,468人

※前月より63人増。

9万5,284世帯

◆『広報あげお』は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅の他、市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」を利用してください。



本紙は、再生紙を使用しております。